



積丹町



息を吹き返した明治後期に建てられた鯨伝習館（ヤマシメ番屋）

「わが村は美しくー北海道」運動第9回コンクール応募団体

積丹地域マリンビジョン協議会

【積丹町】

活力と賑わいのある地域を目指して！

はじめは？

積丹地域の観光が持つポテンシャルと環境保全・文化伝承等の取組を踏まえ、漁港とその周辺において地域産業の連携・協働により雇用を創出し、活力と賑わいのある地域を目指して平成17年から活動しています。活動の柱は、①「地域活性化」積丹ブランドの形成と販売体制の強化、観光関連産業の推進。②「まちづくり」自然環境保全の推進や郷土の自然等に関する体験活動。③「水産業振興」海域環境の保全、蓄養機能の確保、地場消費の拡大、6次産業化の促進です。

おもな活動

- 「積丹ソーラン味覚祭り」は、H30年は3万人に迫る観光客が来場し、地場製品の消費拡大とともに都市・漁村の交流行事として定着しています。
- ニシン漁の拠点だった築100年以上の番屋を「鯨伝習館ヤマシメ番屋」として再生し、漁村文化の伝承・体験観光への活用の取組も推進しています。
- ダイバーと漁業者の協働体制での磯焼け対策、森林保全活動、地元の子供たちへの水産教育・水泳教室等に取り組んでいます。
- 重要な観光資源である「ウニ」の陸上蓄養の実証試験に取り組み、高品質なウニの安定供給と、提供期間の拡大等を目指しています。



ヤマシメ番屋の内部(左)



実証試験中のウニ(上)

ここが自慢

【都市・漁村の交流】

- 「積丹ソーラン味覚祭り」は、H30年は3万人に迫る観光客が来場し、都市・漁村の交流事業として根付いています。今年で13回目を迎えるこのイベントを、楽しみにしている都市部からの観光客も大勢います。
- 「さくらます祭り」は、早春の漁業資源であるサクラマスを活用し、観光シーズンの長期化を目指すとともに、さくらます資源保護の取組とその重要性を伝えていきます。



積丹ソーラン味覚祭り

●観光特産品づくりの推進のため、農林水産資源を活用したジン等のスピリッツ蒸留事業の取組も新たに開始しました。

連絡先

代表者名：松井 秀紀町長／設立：2005年／
会員：町内7経済団体等

住所：積丹郡積丹町大字美国町字船濶48番地 5

電話番号：0135-44-3382 （積丹町農林水産課）

F A X：0135-44-2125

E-mail：nourin@town.shakotan.lg.jp

U R L：https://town-shakotan.com/